

# 健康への



シリーズ(115)

## 腎臓の病気(2)

光町の皆さんこんにちは。今回も腎臓についてのお話をします。腎臓の働きの悪化により慢性腎炎が進行して慢性腎不全となります。生活環境の改善や抗生物質等の医療の進歩により細菌感染による急性腎炎由来の腎不全は減少し、最近では糖尿病や動脈硬化による腎障害から慢性腎不全になる例が増加しています。

慢性腎炎の時期では症状が少なく、腎不全の状態になって始めて気づくことも稀ではありません。毎年健康診断を受けて健康状態をチェックし、病気の早期発見に心懸けましょう。慢性腎炎と診断された場合には、腎臓に負担を掛けないように、日常生活の改善や塩分・蛋白質の制限などにより病気の進行を遅らせることが重要です。近年、生活習慣病の代表である高血圧や糖尿病の悪化による腎不全の増加は著しく、血液透析患者のうち糖尿病関連は38%、高血圧は8・2%を占めており、年々増加する傾向です。対策としては、病気の早期発見と治療及び生活習慣を改善することにより透析治療が必要な腎不全状態になるまで10〜20年進行を遅らせることが可能です。

それでも徐々に腎障害は進行していきます。腎不全は放置すれば全身の浮腫や老廃物の貯留による臓器障害などを起こす尿毒症となります。以前は尿毒症は即死を意味しましたが、現在では血液透析や腹膜透析などの治療により長

期の生存のみならず社会復帰も可能となっています。その代わりに血液透析などの人工腎臓の治療は週に2〜3回、数時間を透析機に拘束される生活の制限があります。その医療費も高額となっています。

腎炎から腎不全についての腎臓病の話をしました。他に臓器に生じる疾患もあります。特に悪性腫瘍(腎癌)が問題です。血尿を主訴として病院を受診し、腹部超音波検査や腹部CT検査により腎臓に異常な実像として発見・診断されます。稀には、健康診断で発見されることもあります。外科的切除が必要です。

超音波検査で良くお目にかかるのは、腎臓の一部に水を成分とする嚢胞があります。健康診断では1〜2割に見られますが2cm以下の単胞の時は心配いりません。多発性の場合には腎機能の低下を来す場合があるので専門医に相談してください。

腎臓の役割は老廃物の除去だけではありません。腎臓からは、血液の調整をするホルモンや貧血の際に造血を促すホルモンも出ています。そのため、人工腎臓などの医療機器が進歩しても完全に代用することは不可能です。長期の透析による影響がみられており、腎不全の治療としての移植治療に関心が集まっています。腎臓では心臓と違って生体での片方の腎臓の移植が可能です。予備としての腎臓を提供する人の腎機能の低下もあるので、今後は脳死も含めた死体移植に重点が置かれます。

※東陽病院の休日当番日

7月13日(日)・21日(月) 午前9時〜午後6時  
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎④1335



東陽病院 院長 伊藤 文憲

## 夏休み子ども科学講座

### 森の王者カブトムシ・クワガタムシの世界

- 講師 齊藤明子先生 (千葉県立中央博物館研究員)
- 日時 7月24日(木) 午後2時〜3時
- 場所 図書館2階学習室
- 対象・定員 小学3年生以上 60名
- 申込み 図書館カウンターまたは電話でお申し込みください。
- 問合せ 図書館 ☎④3311



ほんの

森

＝町立図書館＝  
☎④3311



7月・8月は  
午後7時まで開館します

※8月29日(金)まで  
(土・日・月曜、7月8日(火)を除く)

### 休館日

7月7日(月)、8日(火)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、8月4日(月)